



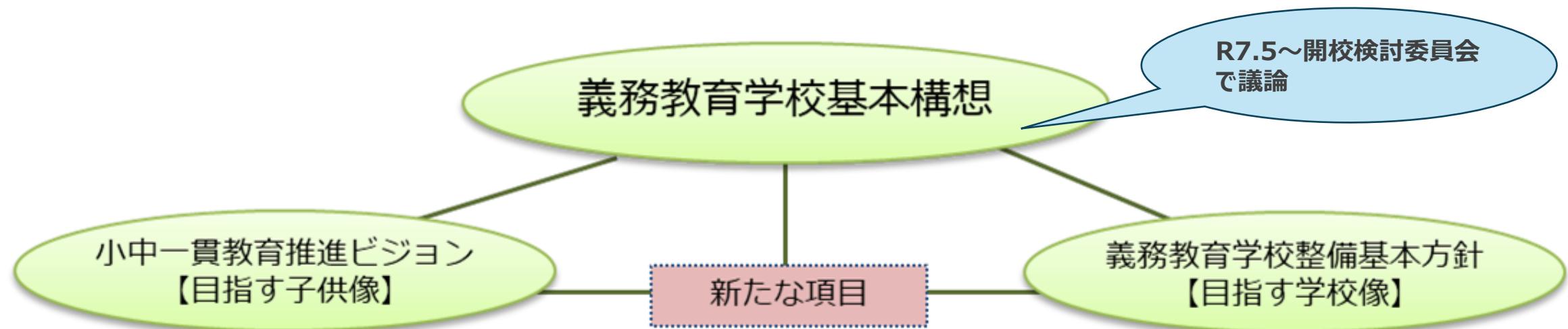
美幌町義務教育学校

基本構想(案)について

美幌町教育委員会

◎ 基本構想とは

小中一貫教育の推進と義務教育学校の整備に関する
「基本的な考え方」をまとめたもの



- ・小中一貫教育の基本目標
- ・目指す子供像と育成したい
資質・能力
- ・美幌スペシャル・美幌スタンダード

- ・学校概要
- ・教育課程編成の基本的な考え方
(学年の区切り)
- ・建設予定地及び建設形態

- ・学校規模・必要諸室
- ・建設候補地の比較・選定
- ・事業スケジュール

◎学校現場における様々な課題

- ・中1ギャップ（小学校から中学校進学時の環境の変化）
- ・不登校児童生徒数の増加
- ・特別支援学級児童生徒数の増加

◎少子化の影響

- ・児童生徒数の減少（R7：1,021人 → R13見込：731人）
- ・クラス替えや集団での教育活動が困難となる恐れ

義務教育9年間を見通した段差のない継続的・系統的な学習指導や生活指導ができる「小中一貫教育の推進」が必要

美幌町における児童生徒数の状況

P3



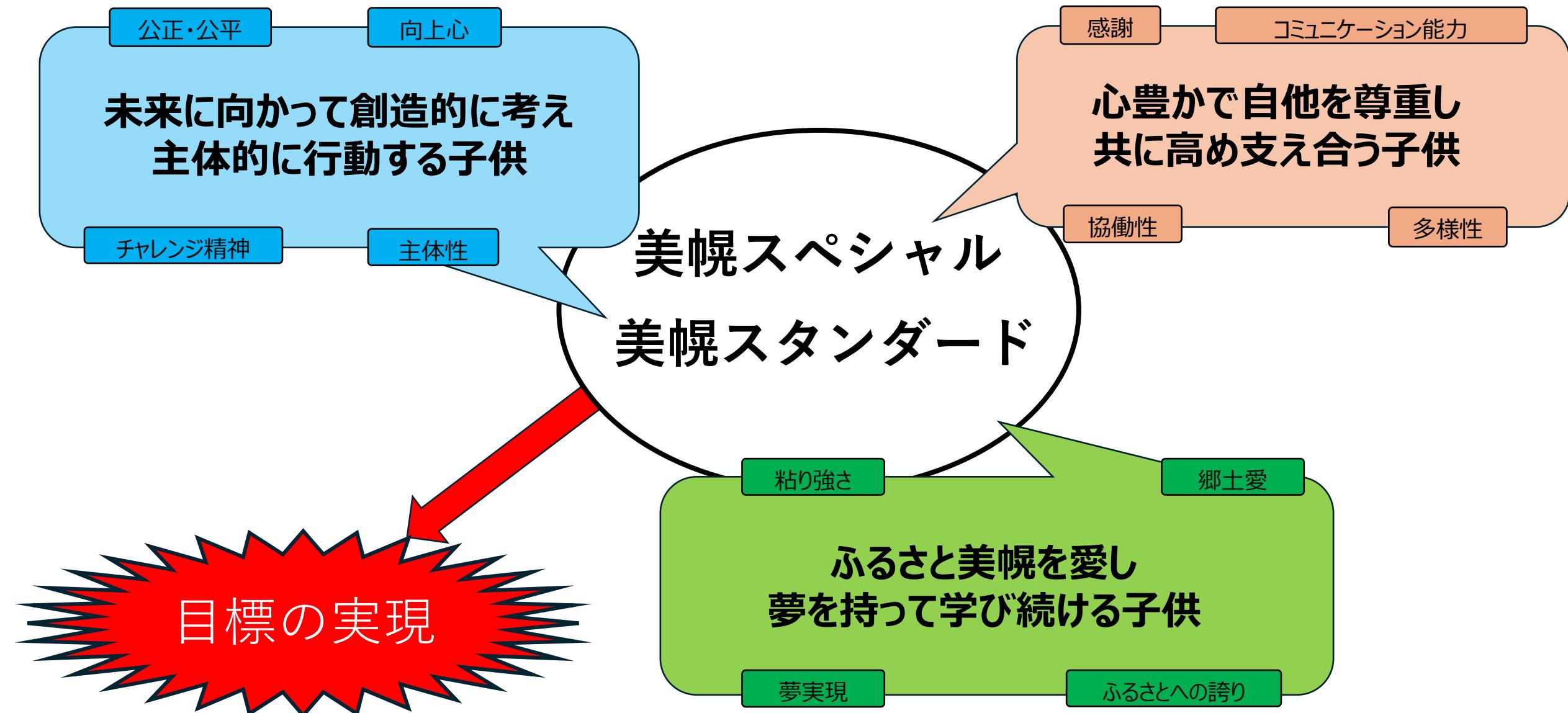
◎美幌町小中一貫教育推進ビジョンより

美幌町の小中一貫教育の基本目標

ワンチームで
意欲や自己肯定感を高める
教育の推進

9年間を見据えた共通指導で
社会を生き抜く力を育てる
教育の充実

段差のない系統で
ふるさと愛や夢を育む
教育の創造



◎特色ある教育活動の実践の2本柱

美幌スペシャル

「グローカル教育」
3つの柱で、世界の視野で考え、地域
で行動するグローカル人材を育てます

- ・英語教育：世界を見つめる
- ・キャリア教育：自分を見つめる
- ・ふるさと教育：美幌を見つめる

美幌スタンダード

「令和の日本型学校教育」
子供が主役の授業で、確かな学力と
探究力を育てます

- ・個別最適な学び：知識及び技能の習得
- ・協働的な学び：探究力の育成

◎小中一貫教育により期待される効果



児童生徒

- ・合同授業や合同行事、相互乗り入れ指導などで、異学年の児童生徒同士の関わりが深まる
- ・上学年と下学年の相互の思いやりの気持ちが生まれる



教職員

- ・児童生徒の様子や実態、課題などを共有することで、一貫した指導を行うことができる
- ・中1ギャップなどの学校単独では困難な課題の解決が期待できる



家庭・地域

- ・地域の教育資源を活用した学習を通して、地域との連携や実践的な学びが促進される
- ・児童生徒の地域社会に貢献する意識が高まる

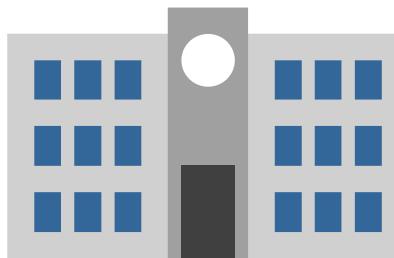
など

など

◎小中一貫教育制度とは

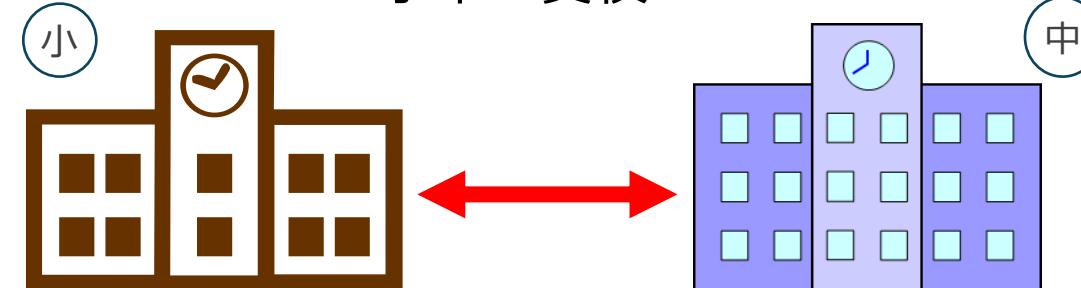
- ・小中学校9年間を通じた教育課程を検討し、系統的な教育を目指す制度
- ・「義務教育学校」と「小中一貫校」の2種類の学校形態

義務教育学校



- ・前期課程6年間、後期課程3年間の合計9年間（学年制を柔軟に変更可能）
- ・一人の校長の下、一つの教職員組織
- ・原則、小中学校両方の免許を所有

小中一貫校



- ・小学校6年間、中学校3年間
- ・二人の校長の下、二つの教職員組織
- ・小中学校それぞれの教員免許で授業を行う

義務教育学校の優位性（メリット）

P11

小中の教員が一つの組織体制
なので目的の共有がしやすい

9年間が一体化されることで
「中1ギャップ」の緩和につながる

小中の切れ目のない学校
(9年間のカリキュラム)



義務教育学校

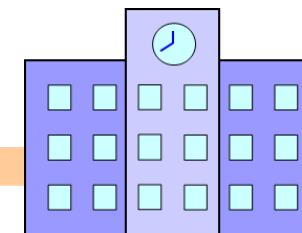
異学年交流による精神的な発達
(思いやりの心や憧れの気持ち)
が期待できる

9年間が一体化されることで
子供の成長に応じたきめ細やか
で継続的な指導ができる



小学校

(6年間のカリキュラム)

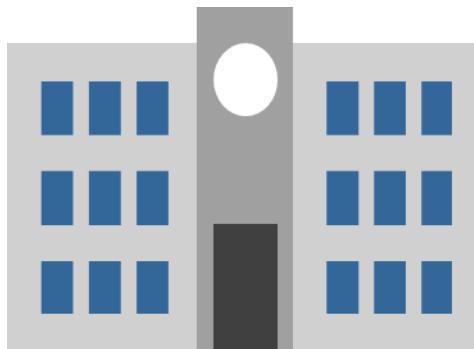


中学校

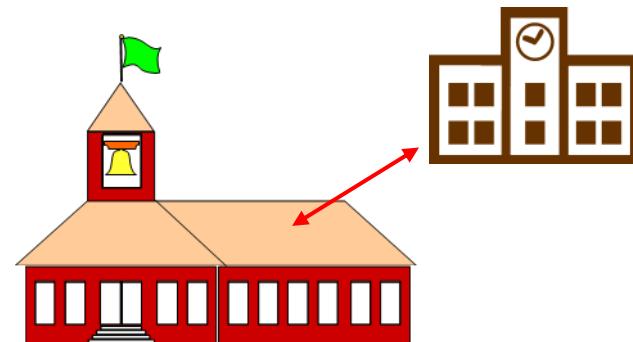
(3年間のカリキュラム)

【参考】施設の種類

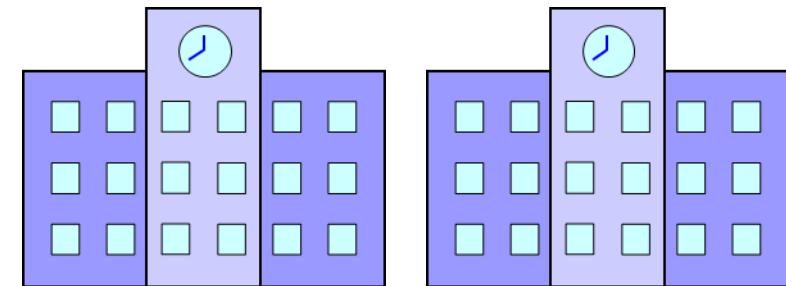
一体型



分離型



隣接型



同じ敷地・校舎内での小中
一貫教育
移動に時間がかかる反面、
施設整備のコストがかかる

離れた場所にある小中学校での
小中一貫教育
施設整備のコストを抑えられるが、
移動に時間がかかる

隣接する小中学校での小中
一貫教育
分離型よりも移動に時間が
かかる反面、小中学校が隣接
している必要がある

施設一体型の義務教育学校を整備する理由

P11

- ◎ 同一の校舎で学校生活を送ることで、子供同士が接する場面が増え、小中の枠を超えて互いを尊重する態度の育成が期待できる
- ◎ 子供の発達段階に見合った組織的な指導により「中1ギャップ」などの課題解決が期待できる
- ◎ 分離型や隣接型とは異なり、小中教員がお互いの授業に参加し相互理解を深める「乗り入れ指導」を効率的に行える



様々な課題解決にスピード感をもって対応するため、小中が同じ校舎に存在する「施設一体型の義務教育学校」が望ましい

(1)形態

町内小中学校5校（美幌小学校・東陽小学校・旭小学校・美幌中学校・北中学校）を再編した9年制の施設一体型義務教育学校

(2)管理職

校長1名 副校長1名 教頭2名

(3)児童生徒数

児童数451名 生徒数280名
合計731名

令和13年度の開校へ向けて



学校概要

P12

(4)教職員数

(単位:人)

		校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	合計	
前期課程	通常学級	1	1	1	15	1	1	1	60	
	特別支援				15					
後期課程	通常学級	1	1	1	14	1	-	1		
	特別支援				7					
ことばの教室		-	-	-	6	-	-	-	6	
合計		1	1	2	57	2	1	2	<u>66</u>	

※副校長の配置を想定していますが、今後変更となる可能性があります

(5)学級編制

①通常学級 22学級

(単位：人、学級)

	前期課程						後期課程			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	
児童生徒数	52	58	47	69	54	77	72	86	98	613
学級数	2	2	2	2	2	3	3	3	3	<u>22</u>

※1～2年生は、町独自の
基準(30人以下学級)

②特別支援学級 19学級

(単位：人、学級)

		知的	自閉 情緒	言語	病弱	肢体	難聴	合計	教員数
前期課程	児童数	11	80	2	-	1	-	94	
	学級数	2	10	1	-	1	-	<u>14</u>	15
後期課程	生徒数	8	14	1	-	1	-	24	
	学級数	1	2	1	-	1	-	<u>5</u>	7

「4－3－2制」の導入

1stステージ(1～4年生)
基礎期・習得期

学習・生活の基礎・習得の
ための4年間

2ndステージ(5～7年生)
活用・充実期

学習・生活の活用・充実の
ための3年間

3rdステージ(8～9年生)
発展期

学習・生活の発展の
ための2年間

期待される効果

- ・小・中学校段階が融合した2ndステージを設けることによる「中1ギャップ」の緩和
- ・5年生からの一部教科担任制の導入による7年生からの教科担任制へのスムーズな移行
- ・子供の発達段階に応じて、各ステージで計画的に資質・能力を育成

(1)子供ファーストで快適に学べる学校

学年の区切り（4-3-2）ごとにまとまりをつくり、児童生徒自身が
学年が上がるごとに成長を感じられる学校

など

(2)安全・安心な学校

地震災害、風水害、雪害などの自然災害に対しての安全性を確保
など

(3)地域に開かれ美幌の未来を拓く学校

災害時に地域の避難所として利用や、地域と学校が触れ合うことの
できる憩いの空間を確保

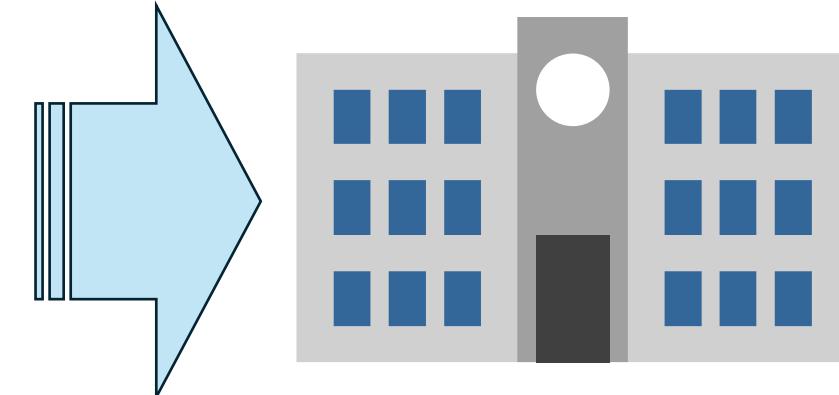
など

(4)環境への配慮や機能向上を目指す学校

空調設備や日照・採光・通風などに配慮し、快適性を確保

など

整備のための4つの方針



◎校舎などの必要面積の目安（文部科学省基準）

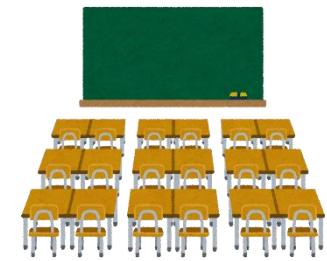
(単位: m²)

	条件	校舎	屋体	武道場	計
小学校	普通学級13学級 特別支援14学級	8,440	1,552		9,992
中学校	普通学級 9学級 特別支援 5学級	5,965	1,511	450	7,926
合計		14,405	3,063	450	<u>17,918</u>

美幌町の学級数に基づく
必要面積の目安
(補助金の上限面積)

(1) 普通教室

- 通常学級 22学級
(前期課程 13学級、後期課程 9学級)
 - 特別支援学級 19学級
(前期課程 14学級、後期課程 5学級)
 - 言語通級指導室
(ことばの教室) 6室



そのほかには…

- ・実験器具や楽器、調理器具、道具類などを保管できる準備室の設置
 - ・防災避難所の炊き出し利用を考慮した家庭科室の配置
 - ・多目的スペースや教職員コーナーの設置

(2) 特別教室

- ・21室を想定します
 - ・学校図書館は、子供たちの居場所として気軽に利用できるよう十分な広さを確保します

	理科室	音楽室	図画工作室	美術室	技術室	家庭科室	イングリッシュルーム	学校図書館	特別活動室	児童・生徒会室	相談室	進路資料・指導室
前期課程	1	2	1	-	-	2	1	1	1	1	2	-
後期課程	2	1	-	1	2		1		1			1
合 計	3	3	1	1	2	2	2	1	2	1	2	1

(3) 管理系施設

- ・校長室に隣接した職員スペースの確保のほか、保健室や会議室などの必要な環境整備を行います



(4) 屋内運動施設

- ・メインアリーナとサブアリーナを整備し、授業や部活動、学校開放事業、学童保育所、防災避難所など広く活用できる運動施設とします
- ・授業で使用するためのスペース（陸上用トラック・100mレーン・ソフトボール場・サッカー場など）の確保のほか、運動会や体育大会などが行えるスペースを確保します
- ・遊具や教材園の整備のほか、遊具の付近にはベンチを設置するなど、地域と交流できる憩いのスペースを確保します



(6)スクールバス

- ・スクールバスや部活動の送迎バスなどが安全に駐停車、乗降や転回ができるスペースを確保します
- ・学校の集約化により通学環境の変化が生じることから、スクールバス運行体制を見直します



(8)学校給食センター

- ・施設の経年劣化が進んでいることから、義務教育学校の開校と併せて整備が可能かを検討します



(7)駐車場・駐輪場

- ・職員や来客用の駐車場を整備するとともに、駐輪場についても十分なスペースを確保します



(9)学童保育

- ・共働き家庭の増加などの実情を踏まえ、学童保育施設を併設します



- ◎安全性
- ◎利便性

防災面における安全性が高い（浸水想定区域外）
都市機能誘導区域における中心拠点で、市街地の
どの地区からも児童生徒が通学できる

- ◎設置面積
- ◎経済性

設置に必要な面積が確保できる
既存の校舎を活用することで、建設費を安価に抑える
ことができる



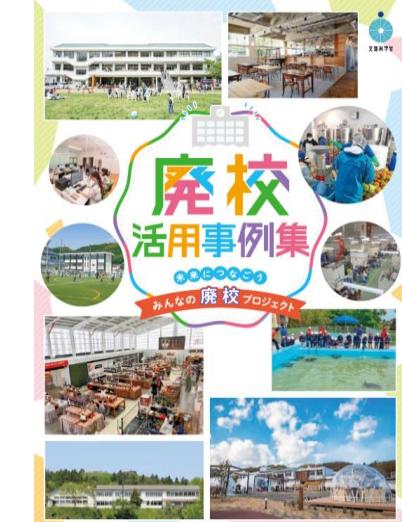
「現美幌小学校敷地」に建設することが最適と判断

- ・現美幌小学校の校舎などは、「耐力度調査」の結果、文部科学省における安全性の判断基準（4,500点）を上回り、継続して使用が可能
- ・調査結果では、建物の状態は概ね良好で、今後も適切な管理を継続すれば約25～30年間は使用が可能

このため、現美幌小学校校舎を**「増築・改修」**し整備します
また、国の補助金などを最大限活用し、将来世代への負担を抑えながら質の高い教育環境を実現します

◎既存校舎の有効利用

美幌小学校以外の4校については、国の補助金を活用した解体を視野に入れながら、全国の活用事例などを参考に有効利用のあり方について検討を進めます



◎かしわの木の取扱い

現美幌小学校敷地にある「かしわの木」については、保全に配慮しながら教育環境の充実を目指す整備に努めますが、子供ファーストで快適に学べる学校づくりに支障を来すと判断した場合は、伐採することも視野に入れ、基本設計の中で検討を重ねてまいります



概算事業費は **83億円** (新校舎：16,000m²の場合)

・基本設計・実施設計関連費	3億円
・建設工事費	73億円
【内訳】	
既存校舎改修分	18億円
増築分	49億円
プール等解体・外構分	6億円
・その他経費	7億円



※整備内容の精査により、実際の事業費とは異なる可能性があります

※上記のほか、美幌小学校以外の4校の施設を全て解体すると仮定した場合、解体費として最大28億円を見込みます

◎想定される財源

義務教育学校整備費の財源

国庫補助金

- ・公立学校施設整備費負担金
- ・学校施設環境改善交付金

地方債

- ・学校教育施設等整備事業債
 - ・過疎対策事業債
- ※償還費用の一部が国から補てん

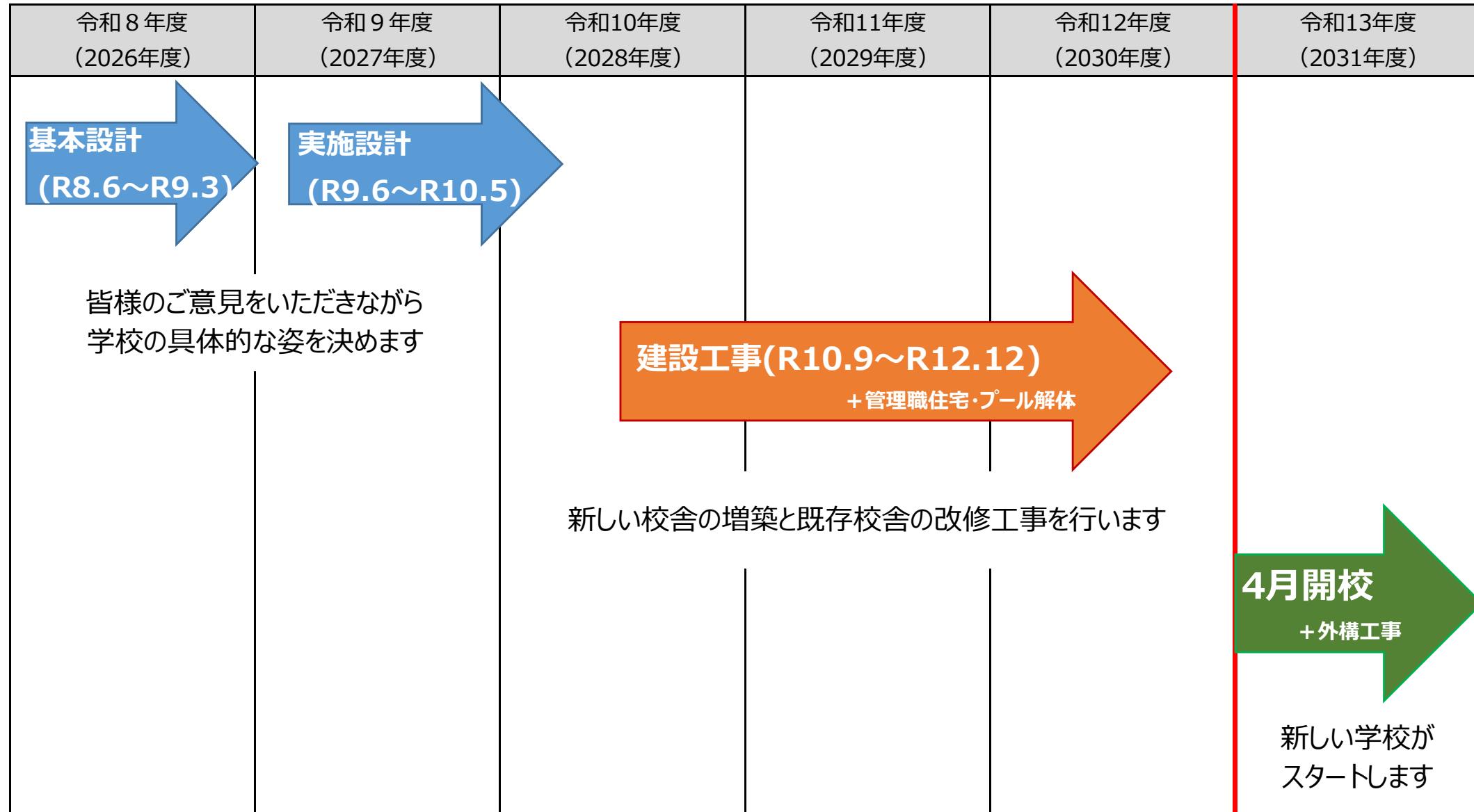
一般財源

(町の負担)

補助金と財政措置の有利な地方債の活用により
一般財源の抑制に努めます

建設に係るスケジュール

P26



※現段階の予定であり、今後変更となる場合があります